

2018年度 決算報告

日産自動車株式会社
2019年5月14日

NISSAN MOTOR CORPORATION



AGENDA

➔ 2018年度 実績

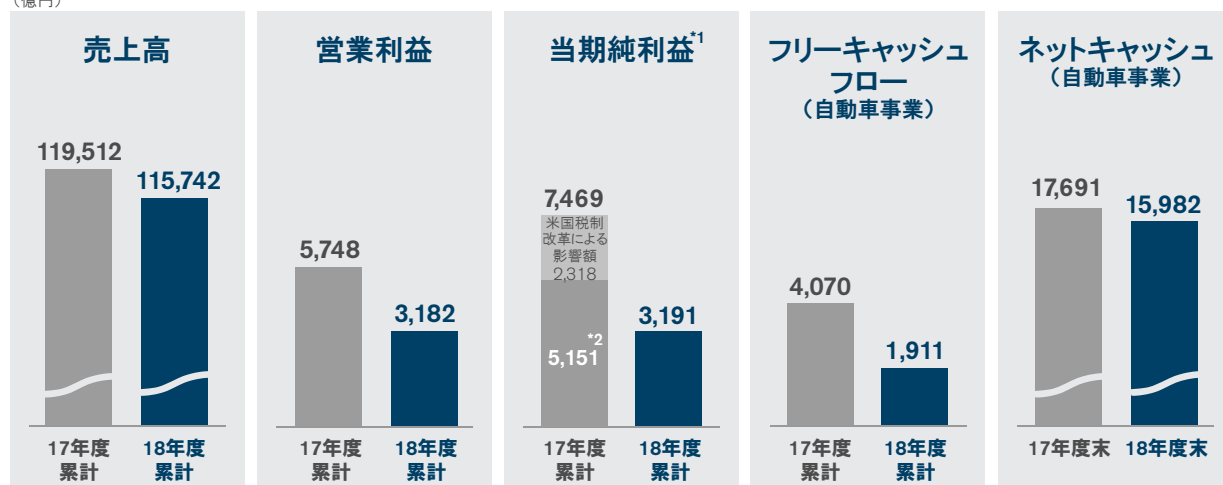
業績見通し

NEW NISSAN TRANSFORMATION

2018年度 主要財務指標

(東証届出値-中国合弁会社持分法ベース)

(億円)

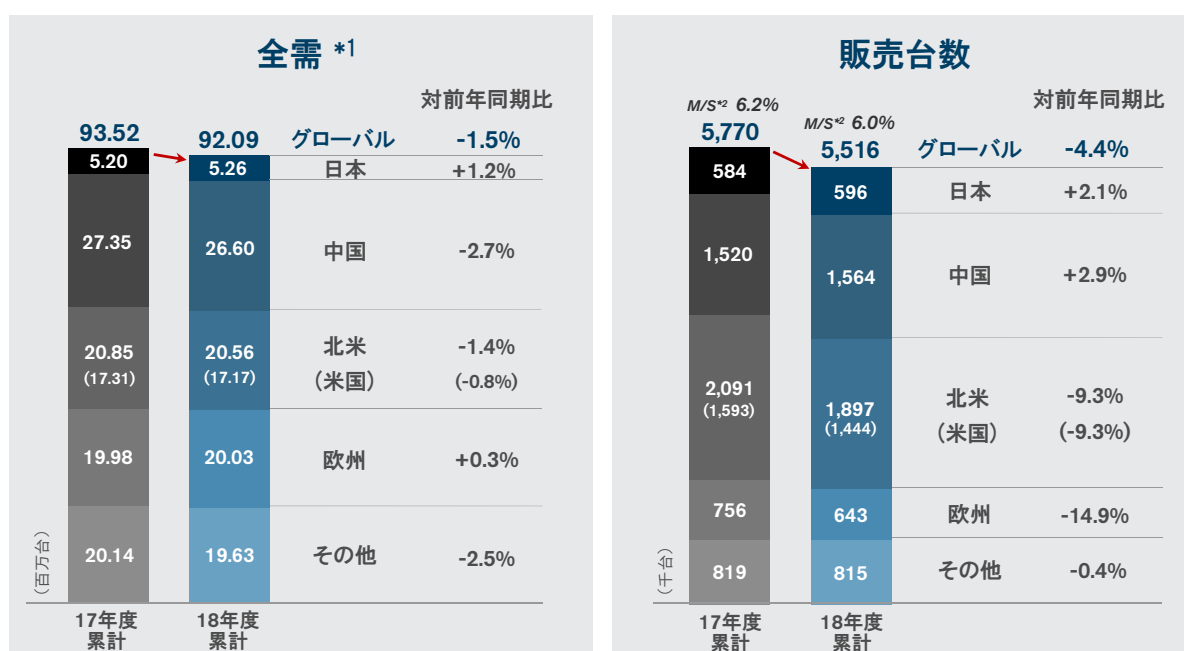


*1: 親会社株主に帰属する当期純利益

*2: 米国の税制改革による影響額 2,318億円を除く

2018年度 販売実績

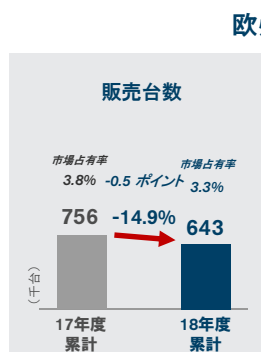
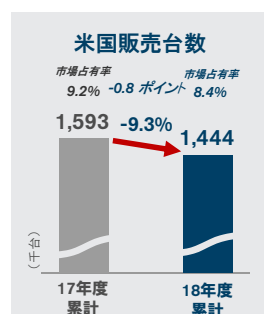
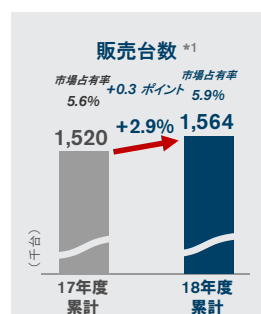
グローバル



*1: 日産集計値

*2: 市場占有率

2018年度 販売実績 主要市場



2018年度 財務実績 (東証届出値-中国合弁会社持分法ベース)

(億円)	17年度 累計	18年度 累計	増減	対前年同期比
売上高	119,512	115,742	-3,770	-3.2%
営業利益	5,748	3,182	-2,566	-44.6%
営業利益率	4.8%	2.7%		
営業外損益	1,755	2,283		
経常利益	7,503	5,465	-2,038	-27.2%
特別損益	-396	-688		
税金等調整前当期純利益	7,107	4,777	-2,330	-32.8%
税金費用	530	-1,358		
実効税率	-7.4%	28.4%		
少数株主利益 *1	-168	-228		
当期純利益 *2	7,469 *3	3,191	-4,278	-57.3%
為替レート (ドル/円)	110.9	110.9	0.0	
為替レート (ユーロ/円)	129.7	128.4	-1.3	

*1: 非支配株主に帰属する当期純利益

*2: 親会社株主に帰属する当期純利益

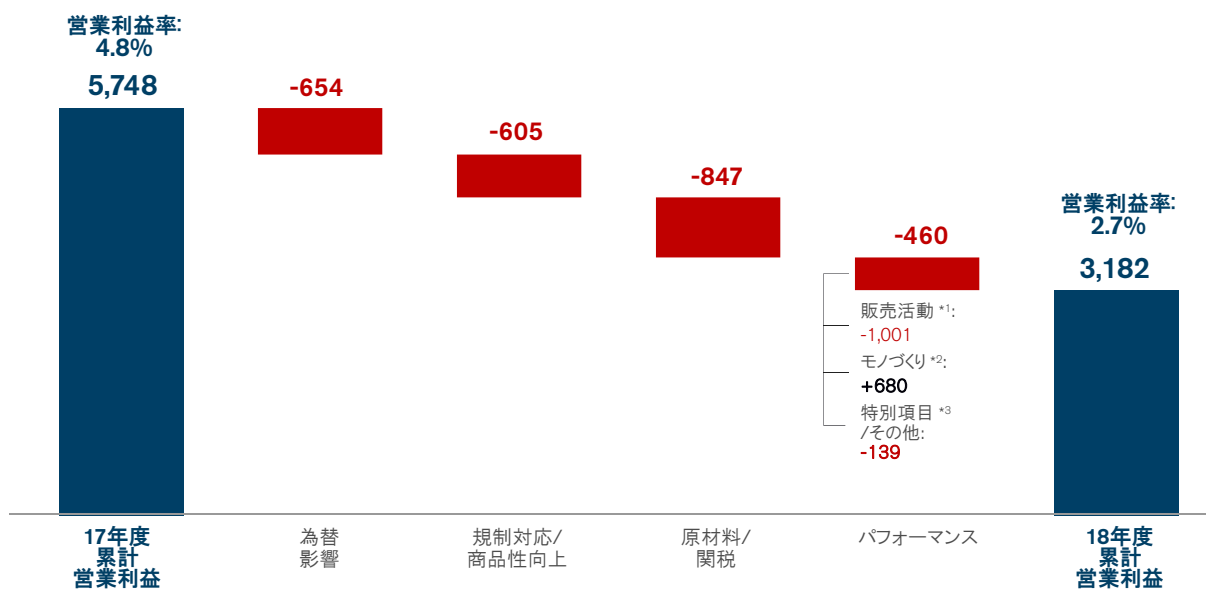
*3: 米国の税制改革による影響額 2,318億円を含む

2018年度 財務実績

(東証届出値-中国合弁会社持分法ベース)

営業利益増減分析

(億円)



*1: 台数/構成、販売費用を含む

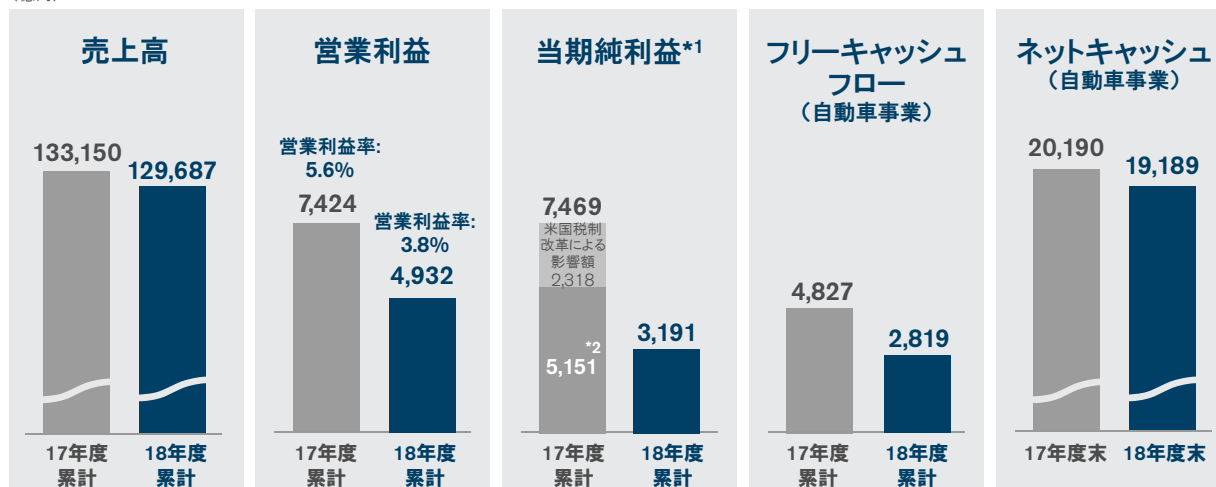
*2: 購買コストの削減、研究開発費、生産費用を含む

*3: 完成検査問題の影響、集団訴訟和解に係る費用、過年度財務情報の修正額及び米国市場における保証期間延長費用を含む

2018年度 主要財務指標

(中国合弁会社比例連結ベース)

(億円)



*1: 親会社株主に帰属する当期純利益

*2: 米国の税制改革による影響額 2,318億円を除く

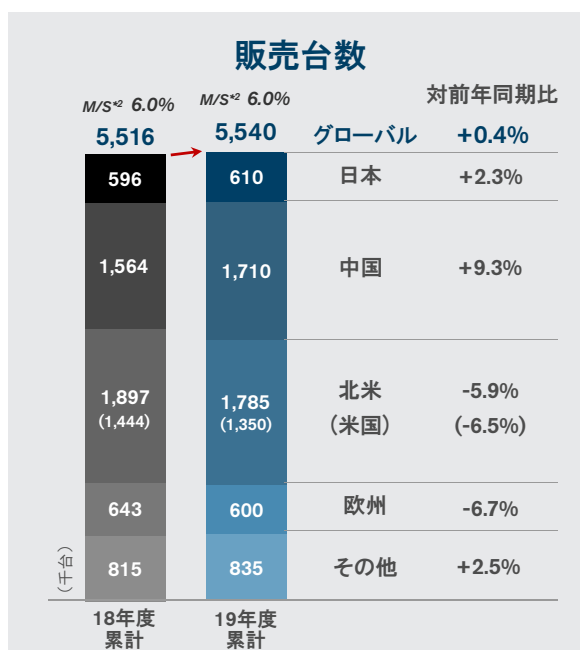
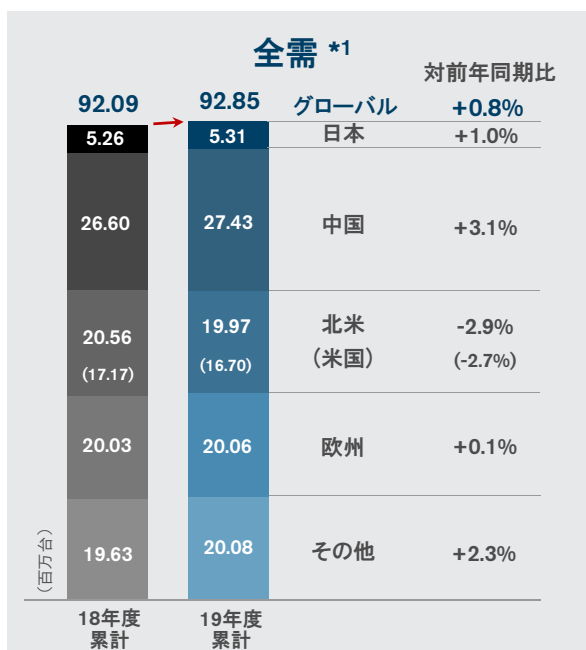
AGENDA

2018年度 実績

➡ 業績見通し

NEW NISSAN TRANSFORMATION

販売台数見通し



*1: 日産集計値
*2: 市場占有率

業績見通し

(東証届出値－中国合弁会社持分法ベース)

(億円)	18年度 実績	19年度 見通し	増減	対前年同期比
販売台数 (千台)	5,516	5,540	+24	+0.4%
売上高	115,742	113,000	-2,742	-2.4%
営業利益 営業利益率	3,182 2.7%	2,300 2.0%	-882 -0.7%	-27.7%
当期純利益* 当期純利益率*	3,191 2.8%	1,700 1.5%	-1,491 -1.3%	-46.7%
設備投資 対売上高比	5,099 4.4%	5,700 5.0%	+601 +0.6%	+11.8%
研究開発費 対売上高比	5,231 4.5%	5,500 4.9%	+269 +0.4%	+5.1%
想定為替レート (ドル/円)	110.9	110.0	-0.9	
(ユーロ/円)	128.4	129.0	+0.6	

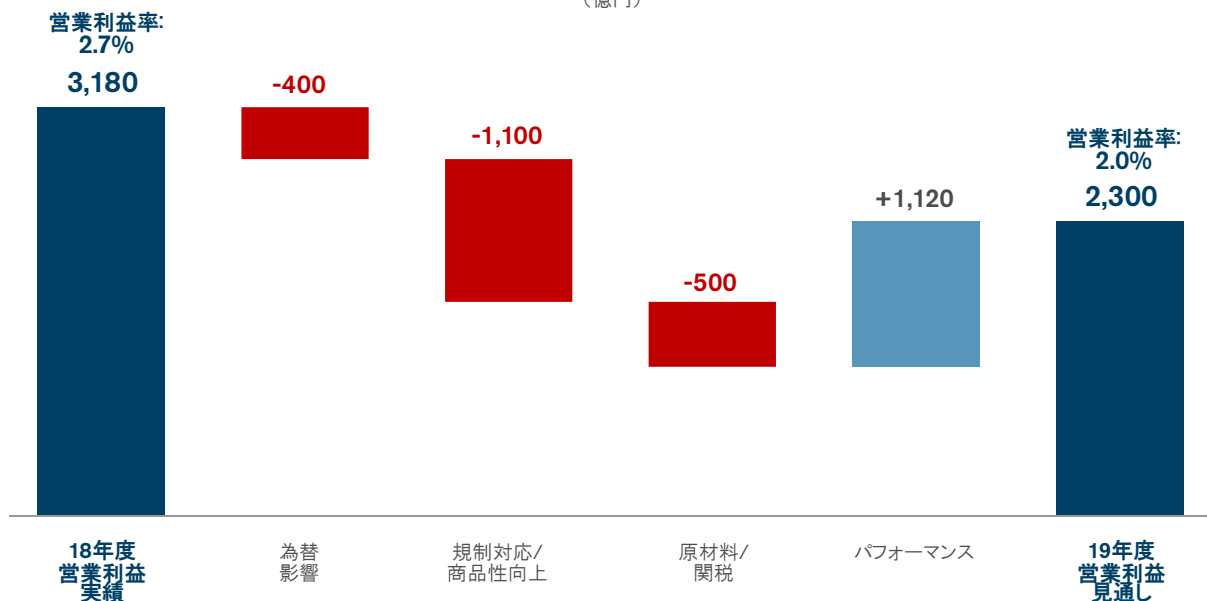
* 親会社株主に帰属する当期純利益

業績見通し

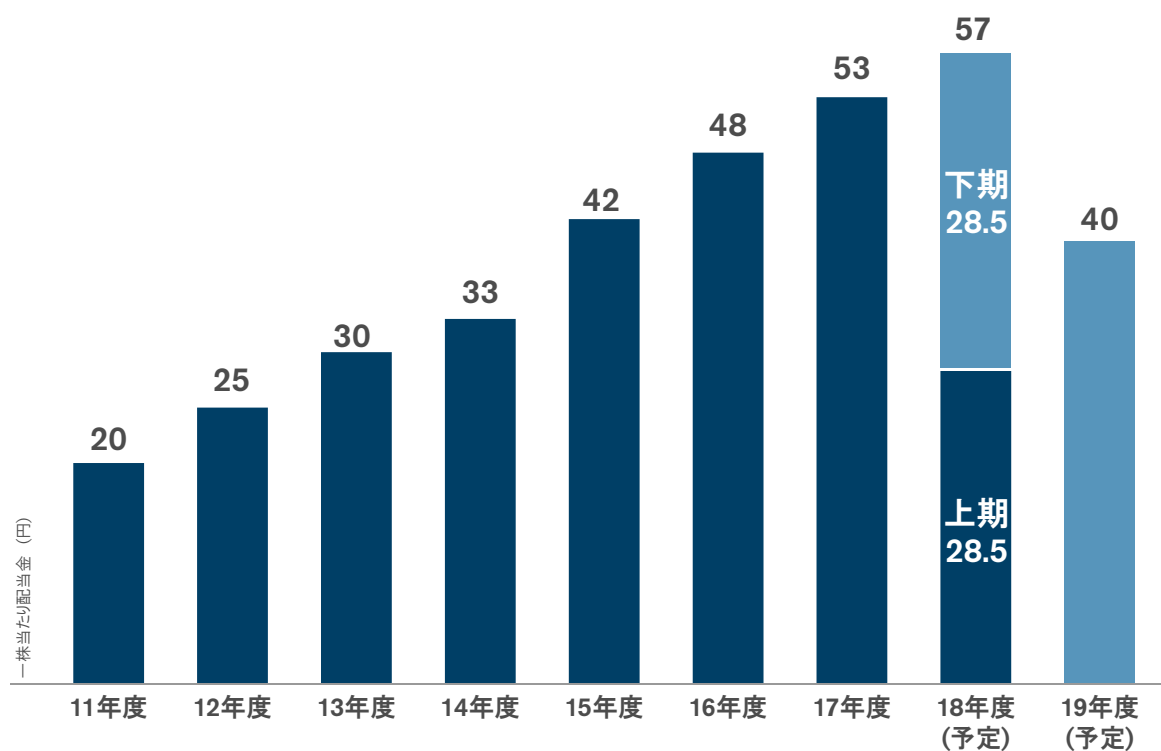
(東証届出値－中国合弁会社持分法ベース)

営業利益増減分析

(億円)



株主還元



AGENDA

2018年度 実績

業績見通し

 NEW NISSAN TRANSFORMATION

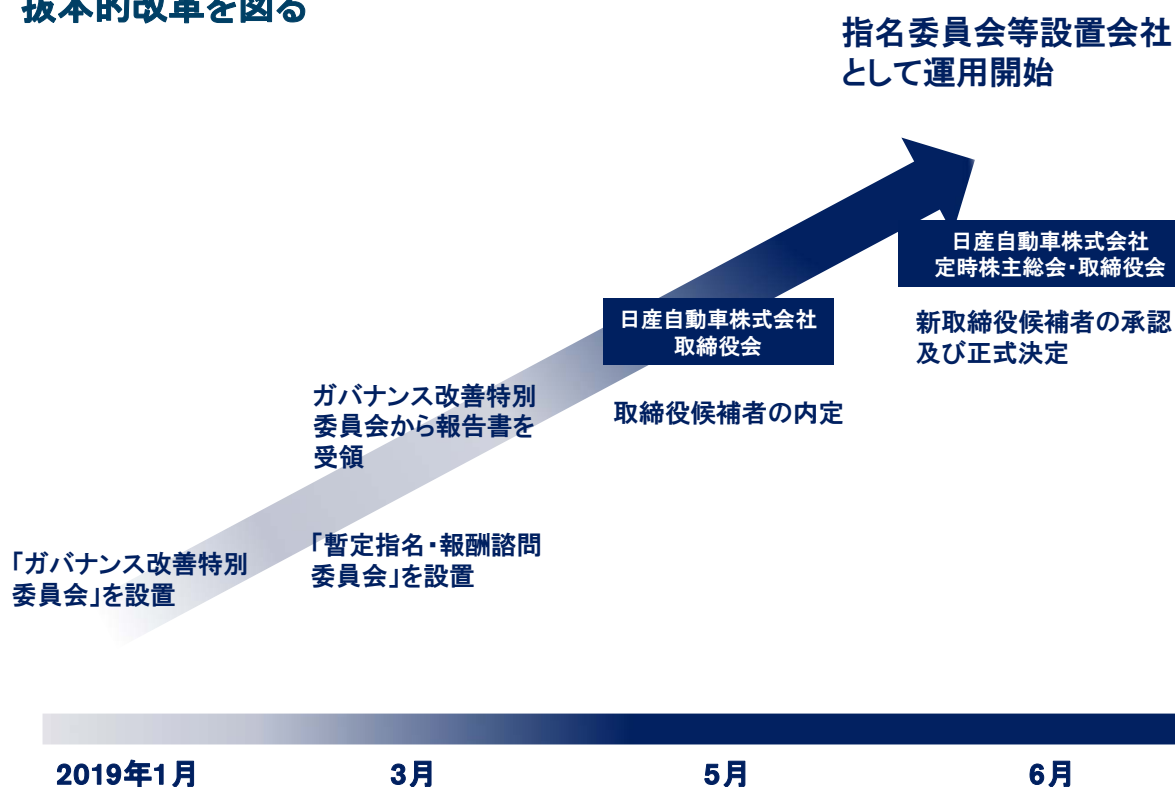
NEW NISSAN TRANSFORMATION

ガバナンス改革

組織改革

事業改革

ガバナンス改革 抜本的改革を図る



組織改革

迅速で効果的な意思決定による事業運営の強化



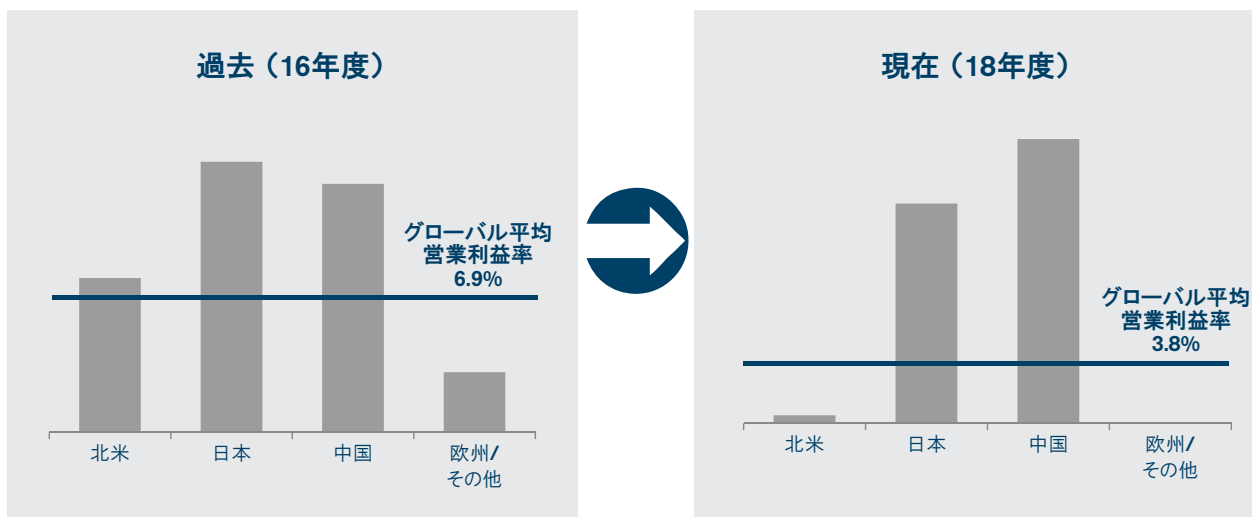
事業改革

日産が直面する課題

米国事業の利益低下によるグローバル利益への影響

仕向地別営業利益率

(中国合弁会社比例連結ベース)



事業改革

リカバリープランの主な取り組み

1. 米国事業のリカバリー

2. 事業及び投資効率の適正化

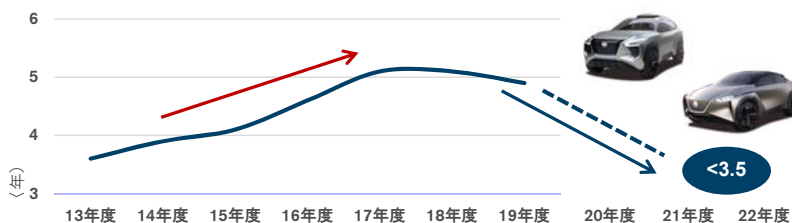
3. 新商品、新技術、「ニッサン インテリジェント モビリティ」を軸にした着実な成長

事業改革

1. 米国事業のリカバリー

商品及びニッサン インテリジェント モビリティによるOaO*1の改善

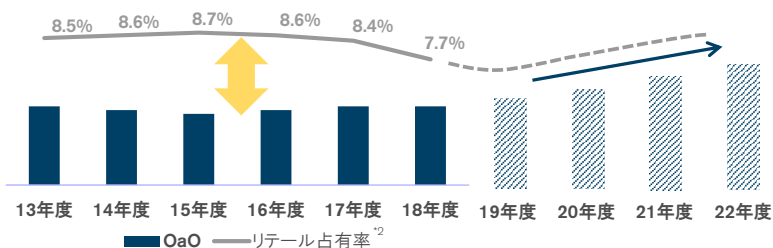
商品ポートフォリオにおける平均車齢



NISSAN INTELLIGENT MOBILITY

	MY18 ^{*3}	MY20	MY22
セーフティシールド ³⁶⁰	0%	73%	>90%
プロパイロットアシスト	4%	28%	~50%
コネクテッド	18%	35%	>70%

OaOとブランド価値の向上



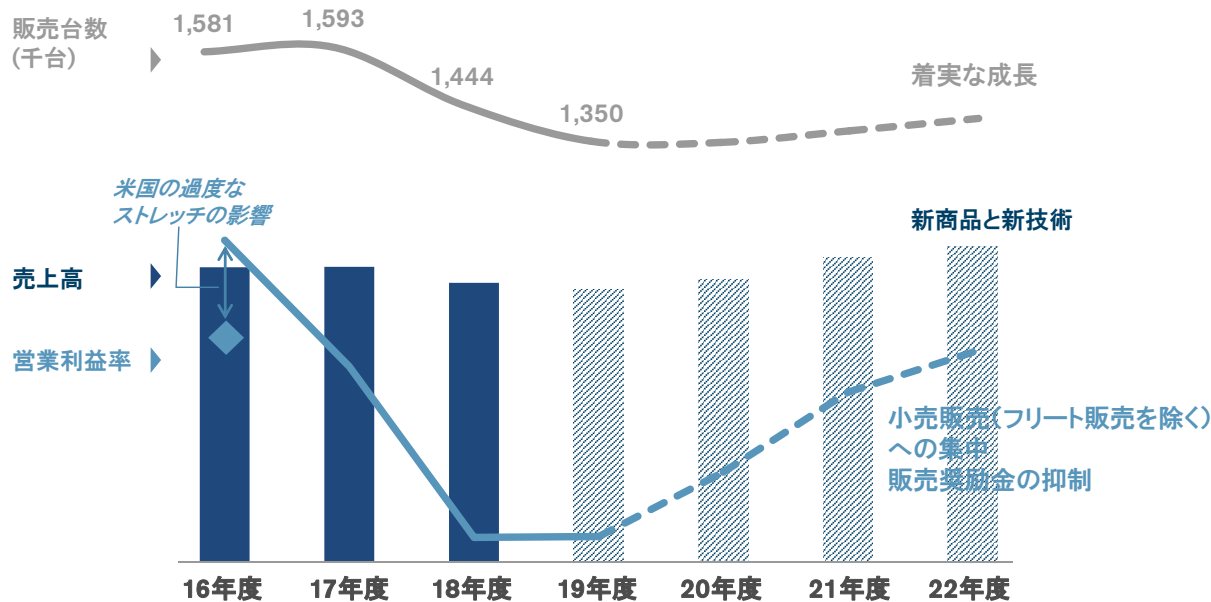
*1: オーバーオール オピニオン (ブランド好感度)

*2: フリートを除いた市場占有率

*3: モデルイヤー

事業改革

1. 米国事業のリカバリー



事業改革

2. 事業及び投資効率の適正化

過去の投資: リストラクチャリング

- 生産効率を10%向上
- 余剰生産能力を10%縮小

グローバルで既に実行に着手

第一弾 効果と主なプロジェクト

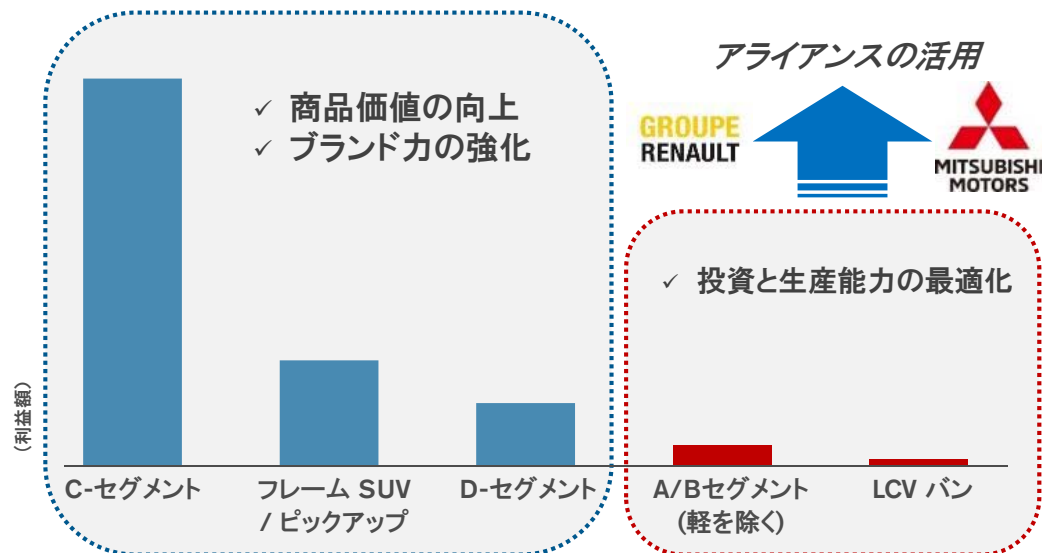
プロジェクト数	人数	初期費用	効果/年
19	-4,800~	-470億円~	+300億円~
地域	2018年度の取り組み	状況	
	・ キヤントン工場における生産調整を開始 (2019年1月)	実施済み	
	・ クエルナバカ工場及びアグアスカリエンテスの2工場において生産の適正化を実施(2019年1月)	実施済み	
	・ 欧州事業における組織の最適化	取り組み中	
	・ バルセロナ工場の規模の適正化	取り組み中	
	・ 高級車ブランド『インフィニティ』の西欧市場からの撤退	取り組み中	
	・ 英国工場における『インフィニティQX30』と『インフィニティQ30』の生産終了	取り組み中	
	・ 次期型『エクストレイル』の生産計画の見直し	決定済み	

事業改革

2. 事業及び投資効率の適正化

将来の投資: 戦略的集中

- 商品ラインナップ効率を10%向上



事業改革

3. 新商品、新技術、「ニッサン インテリジェント モビリティ」を軸にした着実な成長

NISSAN INTELLIGENT MOBILITY

商品ラインアップの強化

2019年度

2020年度

2021年度

2022年度

コアモデルの **全て** を刷新
20 以上の新型車の投入



XMotion



IMQ



IMx Kuro

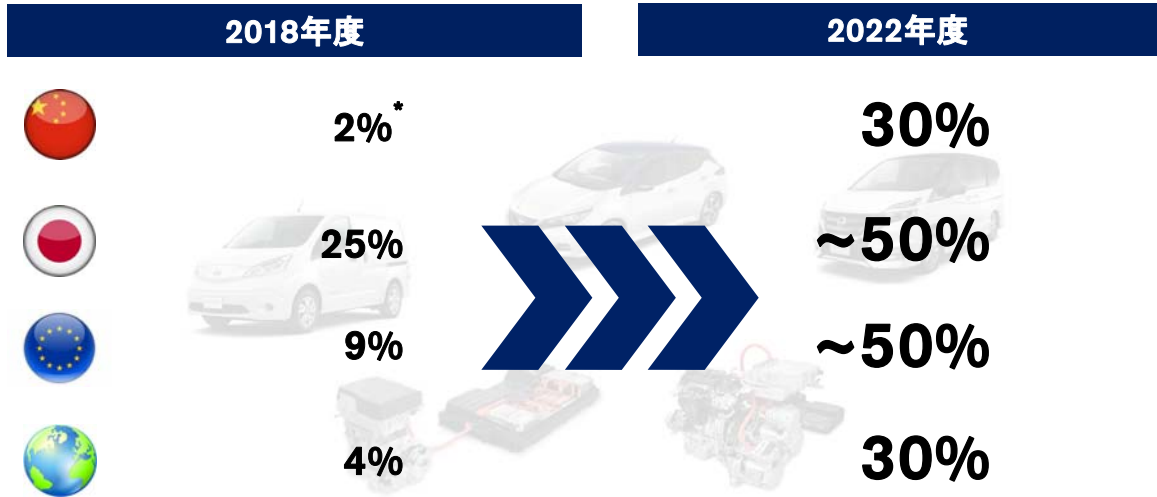
事業改革

3. 新商品、新技術、「ニッサン インテリジェント モビリティ」を軸にした着実な成長

NISSAN INTELLIGENT MOBILITY

電動化の拡大

EVとe-POWERの販売拡大



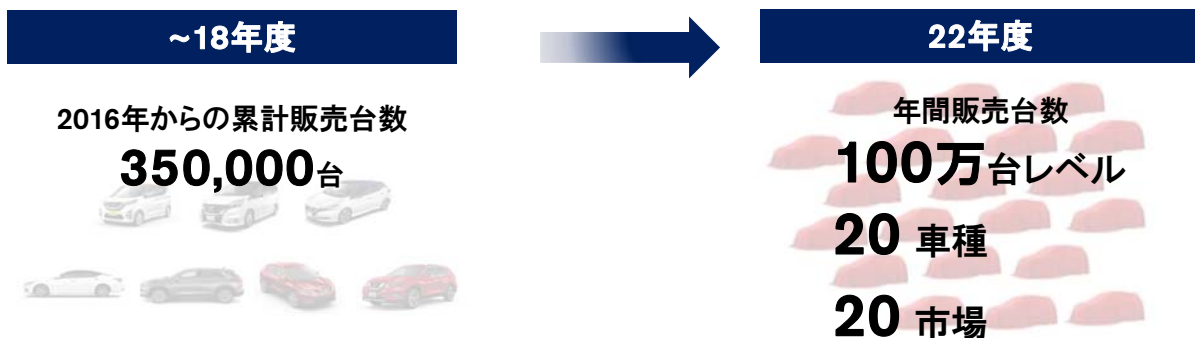
* 2018年1月~12月

事業改革

3. 新商品、新技術、「ニッサン インテリジェント モビリティ」を軸にした着実な成長

NISSAN INTELLIGENT MOBILITY

プロパイロットの拡大



プロパイロットの更なる進化

プロパイロット

高速道路での
同一車線における
運転支援システム

プロパイロット 2.0

ナビゲーションシステムと連動した
高速道路での複数車線における
運転支援システム

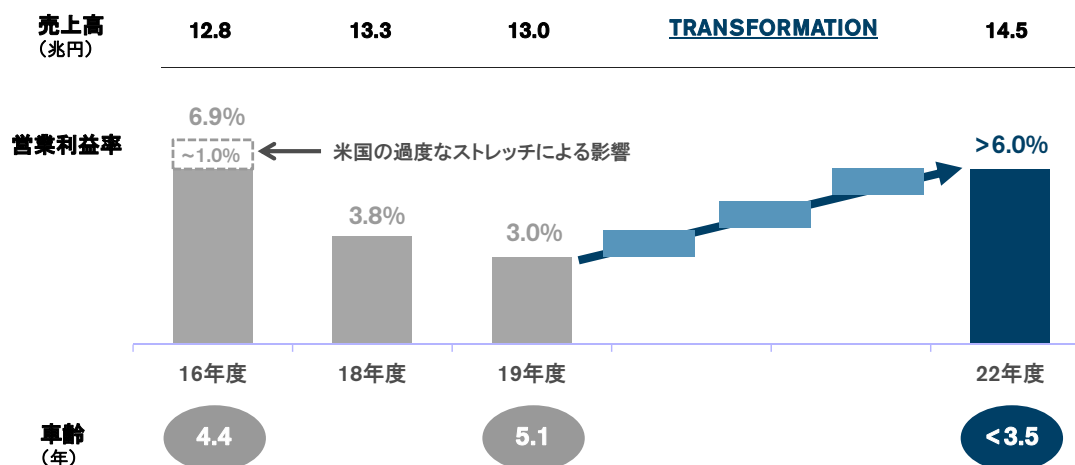
様々な運転環境下での
運転支援システムを提供

事業改革

2022年度末までに6%台の売上高営業利益率を目指す

1. 米国事業の改善
2. 事業及び投資効率の適正化
3. 新商品、新技術、「ニッサン インテリジェント モビリティ」を軸にした着実な成長

中国合併会社比例連結ベース



日産のDNA



NISSAN CROSSING



日産のDNA

**GROUPE
RENAULT**



DAIMLER



:DeNA



本資料に記載されている将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づいており、リスクと不確実性を含んでいます。従いまして、今後の当社グループの事業領域を取り巻く経済情勢、市場の動向、為替の変動等により、実際の業績がこれらの記述と大きく異なる可能性があることをご承知おきください。